

男性にとってのワークライフバランスと若者たちの思い ～男女共に共存できる環境とは～

<アンケート結果集計>

アンケート回答期間；2024年3月28日～4月30日

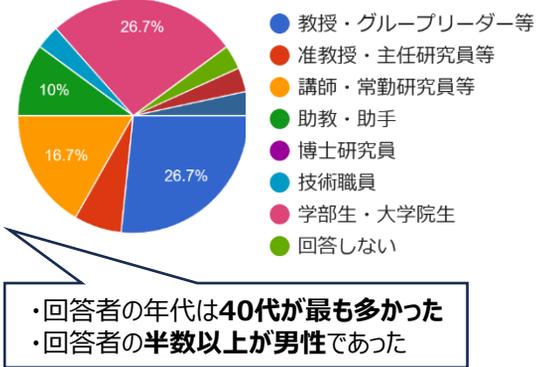
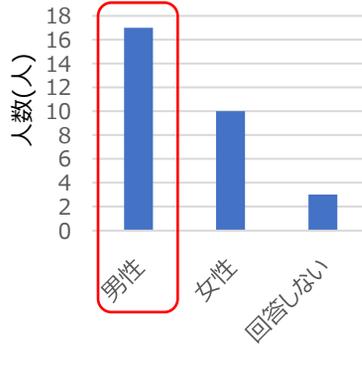
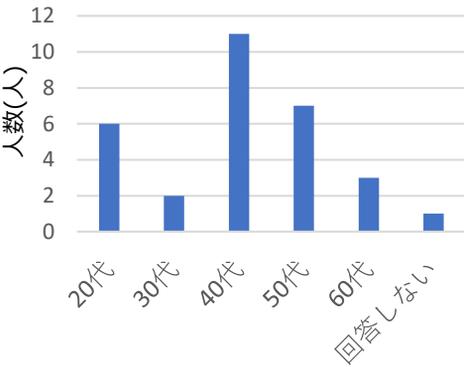
回答者数；30名

1. 回答者の基本属性

【年齢】

【性別】

【職位】

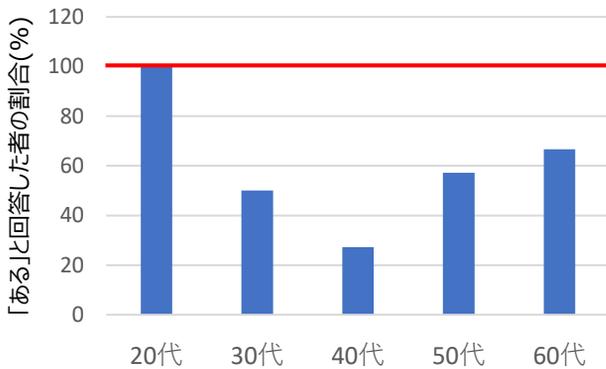


・回答者の年代は40代が最も多かった
・回答者の半数以上が男性であった

2. ジェンダー教育の有無について

※ジェンダー教育 = 性別に左右されず、すべての人の人権を尊重する態度を育むための取組みのこと

【ジェンダー教育を受けたことが「ある」と回答した者の割合】



・20代はジェンダー教育を小・中・高の学校教育の中で受けている者は100%であった
・一方、その他の世代では、ジェンダー教育を受けた者の割合が低く、ジェンダー教育を知った場所は「学校や自治体の講演会等」、「家族や友人」であった

若い世代（20代）は、ジェンダー教育を受けていることがわかった

3. 男性にとってのワークライフバランスについて

<コメントのまとめ>

今回の企画を通して、非常に多くのご意見やご要望をいただきました。自由記述欄に記載していただいた内容を要約した形で掲載させていただきます。

- ・男女ともに、というのが大事だと思う。
- ・社会全体が男性は働くものだというイメージが強く、働く以外の時間（自由な時間）の確保が難しいように感じる。
- ・個人の希望と周囲の環境によると思う。
- ・ワークライフバランスや働き方、暮らし方について自己決定権がない。
- ・現状では、やるべきことプラスαの部分での評価が強い以上はライフの犠牲が伴う。
- ・時間拘束よりも時間を使いやすく仕事ができる環境づくりが大切だと思う。
- ・育休が取りづらい。
- ・日本ではこうあるべきという考え方が強く、成果ではなく経過を重視する風潮があると感じる。
- ・海外に比べると日本は遅れている（数だけの女性進出でごまかされていると感じる）。
- ・男女共に悩みは同じであることがわかった。
- ・理想を追わずうまくやればいいことがわかった。
- ・男女ともに長く働きたい人もいるので各人に合ったバランスの尊重を期待する。

男女共に、ワークライフバランスに対する悩みをもっていることがわかり、共感できる部分も多いとのご意見を多くいただきました。諸外国から遅れた現状について、目を向けることが大切だと感じました。

4.プログラム全体や総合討論についてのご感想

<コメントのまとめ>

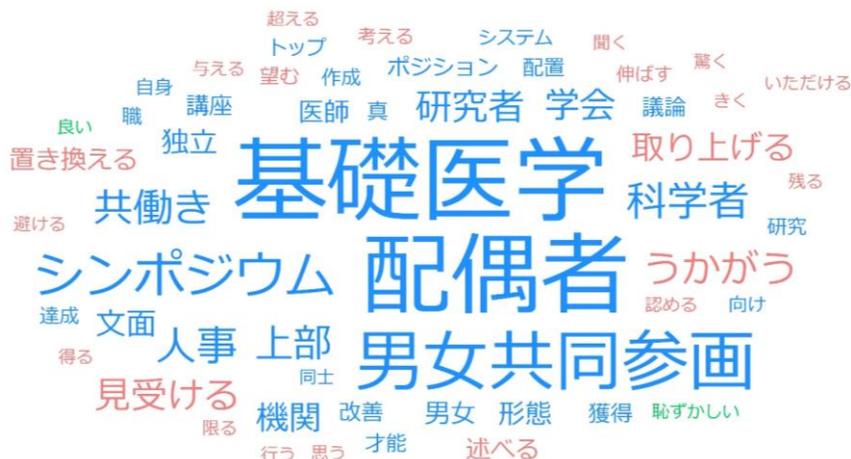
今回の企画を通して、非常に多くのご意見やご要望をいただきました。自由記述欄に記載していただいた内容を要約した形で掲載させていただきます。

- ・演者の選定が良かった。
- ・若い人にはジェンダーフリーの意識が広がっていることを知った。
- ・興味深い内容だったので、考える機会になってよかった。
- ・質疑応答の時に学生さんが質問していたのが印象的だった。
- ・心に響く内容だと思った。
- ・もっと長く講演を聴きたかった。
- ・若者に絞ったバラエティのある話題があれば、もっと良かったと思った（タイトルに「若者」とあったので）。
- ・若い世代の方は、男女のギャップは普段感じないと感じていることを知り、徐々に変わってきていると感じた。
- ・里親制度のお話が興味深かった。
- ・デザインについての考え方（人と人との間をおぎなうもの）がとても勉強になった。

多くのご意見をいただき、本会が活発な討論の場となったことは大きな収穫でした。参加者の皆様のご協力に感謝致します。一方で、もっと長く講演を聴きたかったといったご意見もいただきましたので、今後の企画に生かしていきたいと思えます。

5.男女共同推進委員会企画シンポジウムで企画してほしい内容や今後の委員会活動に期待すること（自由記述欄のコメントをワードクラウド解析した）

※User Local AIテキストマイニングツール（<https://textmining.userlocal.jp/>）による分析



<コメントのまとめ>

今回の企画を通して、非常に多くのご意見やご要望をいただきました。自由記述欄に記載していただいた内容を要約した形で以下に掲載させていただきます。

- ・日本も世界のスタンダードに早く追いついてほしい。
- ・男女共同参画推進委員会がなくなっても問題がないような時代になってほしい。
- ・男女の研究者の実情を、様々な役職の方から聞いてみたい。
- ・医師以外の働き方改革についての議論。
- ・男女別定員に関する議論。
- ・なぜ、基礎医学分野では、配偶者に講座ポジションを与える人事がよく見られるのかについての議論。
- ・基礎医学分野での配偶者同士が同じ職場で働く場合のメリット、デメリット、その状況を他業種から見たときに社会的にどのように評価されるかについて。
- ・共働きで核家族の研究者同士の結婚に対する職場でのサポート例など。
- ・男女共に職階をあげても持続可能な労働形態を達成できるためのシステムがあれば知りたい。
- ・男女の教育格差に関する議論。
- ・雇止めを改善させるための方策を知りたい。

今回の企画を通して、非常に多くの貴重なご意見をいただきました。お忙しい中、アンケートにご協力をいただきまして誠にありがとうございました。